

## 第8回阪南みらい会議 会議要旨

日時：平成22年4月30日(金)

19:00~21:00

場所：市役所3階 全員協議会室

---

### 出席者

委員	15名(欠席者6名)
アドバイザー	近畿大学 久教授
事務局	総務部理事、みらい戦略室5名、 パシフィックコンサルタンツ(株)1名

---

### (1) 会議の進め方について

#### (まとめ)

- ・前回のアドバイザーの意見を受け、今までの会議で出た個別のテーマをまとめていくことを念頭に、司会者を中心に2班に分けて、議論をする。

### (2) グループに分かれて意見交換・内容発表

#### グループ (7名)

- ・高齢化が進むため、循環バス等、公共交通のさらなる整備が必要。経費に関しても、市が一方的に負担するのではなく、受益者・民間事業者も巻き込んで実施すべき。
- ・自治会がネットワークや情報交換の場として活かされていない。市民協働のもと、地域活動や生涯学習等を推進するにあたり、官民ともに、リーダーシップ及びマネジメント能力の育成が重要である。今後10年間での大きな目標として、人材育成を挙げるべきではないか。
- ・観光産業の振興には、宿泊施設を含めた市の目玉となる基盤の充実が望まれる。
- ・市民協働による「海の駅」の振興、「公園」の利活用も推進してはどうか。

#### グループ (8名)

- ・ボランティアや市民活動等の情報を共有する場所や仕組みを作ることが、課題である。
- ・活動が自立するまでは行政の支援も必要だが、公民協働のもと住民自治を進めるには、公民の意識改革、人材育成、やれることをやっていくという姿勢を持つのが重要である。
- ・阪南市に関するいろいろな情報を横断的に知れる状況になっていないため、積極的に情報交換や情報を共有しうる人材が必要である。

～久教授アドバイス～

- ・交野市の場合、今後10年間で協働がうまく動く仕組みを作ろうとしている。それぞれの組織で動くことは得意だが、違う組織でも一緒に動けるよう仕組みや仕掛けを作ることを目指している。
- ・2つのグループで「情報の共有」という同じテーマが挙がったが、協働の仕組みづくりのため、情報共有の仕組みをどうやって作っていけばいいかをもう少し具体的に考えてみる必要がある。
- ・うまく連携していくためにも、市と市民、または市民同士でパートナーの組み方についても考えていく必要がある。連携のためには「繋ぎ役」が必要であるが、同時に「繋ぎ役」に必要な能力についても具体的に考えなければいけない。
- ・観光についての話題が出たが、観光も協働も「繋ぐ」という点で共通している。人を繋げば協働、資源を繋げば観光になる。したがって、今後10年間の重要なポイントは、「繋ぐ仕掛けづくり」や「繋ぎ役の育成」ではないだろうか。人や資源を繋いだりしたい、という人を見つけられれば一番よい。
- ・例えば、繋ぎ役となる組織として、NPO等の中間支援組織は、市の助成金等に頼っているのが多いが、大阪市内や西宮市内には事業者等とタイアップして自立して運営しているという稀なケースもある。
- ・しんどくないやり方をしている事例として、川西市では週末カフェを開いて、ブログ仲間同士で、情報交換しながら仕事を回しあっているという元気な人たちがいるように、20代、30代のプラットフォームはインターネットというネットワークにある。地域のネットワークとしては、「ラウンドテーブル」がその1つになるのではないかな。
- ・観光資源を繋ぐアイデアの事例。  
「四天王寺の夕日の観光利用」  
里海公園の夕日についての話があったが、四天王寺では春分と秋分の日、真西を向いている西門から夕日を眺める、というだけのイベントがある。「西方浄土」という物語を付け加えていることで注目度が増し、毎年数十人が集まるものになっている。
- ・この場では個別の案を出すのではなく、今後10年間でこのようなアイデアを出し、プロデュースできる人材を育成する仕組み作りを話し合うのが重要である。
- ・「面白いことや楽しいことは長続きする」ので、「遊び心」をもって市民活動、地域活動が繋がっていけばよいのではないかな。
- ・阪南市の特産品についてPRする際にも、嘘半分でもいいので、インパクトのある言葉や物語を添えてPRしたほうが効果的である。

(3) 5月の日程

- ・5月15日(土)
- ・5月28日(金)

以上